

第1110回教育委員会

令和4年4月21日
県庁舎教育委員室

1 開 会 午後2時

2 会議録署名委員の指名

3 会期の決定

4 報 告

- (1) 教育長職務代理者の指名について (教育政策課)
- (2) 全国学力・学習状況調査について (義務教育課)
- (3) 山形県立図書館運営基本プラン2025の策定について
(生涯教育・学習振興課)

5 議 題

- 議第1号 山形県産業教育審議会委員の任命に係る臨時専決処理の承認について (高校教育課)
- 議第2号 令和4年度山形県教科用図書選定審議会委員の任命について (義務教育課)
- 議第3号 教職員の人事について (教職員課)

6 閉 会

令和4年度全国学力・学習状況調査の実施状況について

1 期 日 令和4年4月19日（火）

2 対象学年 小学校6年、中学校3年

3 調査内容

(1) 主な変更点

令和6年度の全面導入（予定）に向けた取組みとして、児童生徒質問紙調査を一定規模でオンライン実施する。

(2) 調査内容

① 学力調査 小学校：国語、算数、理科

中学校：国語、数学、理科

② 学習状況調査 学習意欲・方法・環境、生活の諸側面に関する調査

4 県内の状況

【小学校等】

○小学校：224校（／226校）

※ 左沢小藤田の丘分校は不参加

※ 蔵王三小は今年度6年生不在

○義務教育学校：3校（萩野学園、明倫学園、戸沢学園）

○特別支援学校：2校（山麓、ゆきわり）

合計：229校 児童数：8,437人

※ 国立大学附属校（山大附属小）は含めず
（4/19実施は、226校）

4月20日以降に実施する学校
朝日町 1校（宮宿小）
長井市 1校（伊佐沢小）
鶴岡市 1校（あつみ小）

計3校

【中学校等】

○中学校：91校（／92校）

※ 大江中藤田の丘分校は3年生不在

※ 県立東桜学館中学校を含む

○義務教育学校：3校（萩野学園、明倫学園、戸沢学園）

○特別支援学校：2校（山麓、山養）

合計：96校 生徒数：8,964人

※ 国立大学附属校（山大附属中）は含めず
（4/19実施は、95校）

4月20日以降に実施する学校
高島町 1校（高島中）

計1校

5 調査結果について

令和4年7月下旬に公表の見込み

山形県立図書館 運営基本プラン2025 概要版（令和4年3月 策定）

【プラン策定の目的】

令和2年2月1日にリニューアルオープンした県立図書館の機能を最大限に活用し、すべての県民が利用しやすい図書館づくりを着実に進めていくため、計画的かつ戦略的な運営の指針を定めるもの

計画期間 令和4年度（2022年度）～令和7年度（2025年度）

I 目指す姿

県民一人ひとりの生涯学習の基盤となり、知の集積と循環によって、新たな知恵や活力を生み出し、県民の成長と地域の賑わいに貢献する図書館

- 生涯学習施設として、乳幼児から高齢者まで生涯を通して利用することができ、県民一人ひとりの学びや成長に貢献している
- 県都の中核エリアに所在する特性を活かし、交流と情報発信の拠点機能を発揮するとともに、県内図書館との連携によって県全体の図書館サービスが充実し、地域を支えている
- これまで培ってきた継続性のある取組みをベースに、社会の変化に即応した取組みや次代を見据えた取組みに挑戦し続けている

II 3つの行動指針

【行動指針1 ときめく図書館】

本との出会いの場・情報の結節点として知の循環を促進し、乳幼児から高齢者まで、県民の生涯学習に対する意欲が喚起される空間とサービスを提供

【行動指針2 たよれる図書館】

県民の学びと希望の実現を支援する資料を集積し活用を図るとともに、県内図書館全体のサービス充実に必要な連携を強化

【行動指針3 つながり・ひろがる図書館】

デジタル化やICTの活用等により本を基盤とした図書館サービスを県民が等しく享受できる環境づくりを進めるとともに、外部資源との連携・協働を強化し、多様な県民ニーズへの対応と図書館サービスを充実

III 3つの視点

【視点1 戦略的な情報発信】

県内図書館の取組み等に関する情報が、必要とする県民に確実に届くよう、戦略的な情報発信を展開

【視点2 変化への対応】

人口減少やICT・デジタル化の急進、新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式など社会の環境変化や変化のその先を見据え、図書館が果たすべき役割を的確に実行

【視点3 図書館機能を活かした施策への貢献】

県教育振興計画や県総合発展計画等に掲げる施策展開に、積極的に貢献

IV 取組み方策

1 ときめく図書館 ～学びの意欲を喚起する空間の提供～

- (1) 本との出会いを演出し、賑わいの拠点となる空間づくり
 - 図書館機能を活用し、多様な主体と連携して実施する賑わいの創出
 - ・本をとおして全世代の県民が集い、学び、交流し、賑わいの拠点となる空間づくり等
 - 知的探究心を刺激し、来館のきっかけとなる企画の実施
 - ・県民と本とを結ぶ多様な企画展示や講座等の開催による県民の知的探究等への貢献等
 - リニューアルした図書館の魅力を伝える企画展示やイベント等の継続的な開催 など
- (2) 乳幼児から高齢者まで生涯にわたり利用できる図書館づくり
 - 乳幼児期からの利用促進と読育の推進
 - 児童・生徒の利用促進 ○ ビジネス及びリカレント等の支援
 - ユニバーサルデザインの視点に立ち、快適・安全安心に利用できるサービスの推進 など

主 な 目 標 指 標	現況(令和2年度(2020))	目標(令和7年度(2025))
新規利用登録者数	4,202人	毎年度4千人
個人貸出冊数	290,773冊	380,000冊

2 たよれる図書館 ～県民を支える資料の収集・活用と県内図書館との連携強化～

- (1) 県民の暮らしや課題解決、調査研究を支援する蔵書づくり
 - 「山形県に関する資料は県立図書館にある」ことを目指した郷土資料収集・保存とその効果的な活用
 - ・郷土に関する資料を活用した地域の良さや課題等を知る企画展示やイベント等の充実等
 - 全世代の県民の学びと希望の実現を支援する資料の充実
 - 身近な課題の解決を支援する資料とレファレンス(調査相談)の充実 など
- (2) 県内図書館全体のサービス充実に向けた県立図書館の役割の発揮
 - 県立図書館の特性や役割を踏まえた県内図書館への支援の充実(セット貸出、一括特別貸出等)
 - 県内図書館を支える職員等の研修の充実
 - ウェブ会議システム等の活用による新たな連携の推進 など

主 な 目 標 指 標	現況(令和2年度(2020))	目標(令和7年度(2025))
県内公立図書館(室)への貸出冊数	6,136冊	12,000冊
学校図書館への貸出回数(一括貸出・セット貸出)	17回	30回

3 つながり・ひろがる図書館 ～デジタル化と連携協働によるサービスの充実～

- (1) インターネットを活用した利便性の向上とデジタル化の推進
 - アクティブラーニンググループを活用した情報発信の強化(ハイブリッド型講座の開催等)
 - インターネットによる情報発信の更なる強化
 - 非来館型サービスの周知広報と利便性向上(地域に向いて行う利用者カードの作成等)
 - 貴重資料のデジタル化による長期保存対策と利活用の推進(郷土資料のデジタル化による活用等) など
- (2) 連携・協働によるサービスの充実
 - 県民や団体等との連携・協働によるサービスの充実(運営協力サポーター制度(仮称)の創設等)
 - 協働による賑わいづくりを推進するネットワークづくり
 - ふるさと納税制度や雑誌スポンサー制度を活用した図書館機能の充実 など

主 な 目 標 指 標	現況(令和2年度(2020))	目標(令和7年度(2025))
図書館HPの延べ閲覧ページ数(ページビュー数)	1,398,489件	1,600,000件
インターネット予約貸出のうち他館受取冊数	3,757冊	6,000冊

山形県立図書館 運営基本プラン2025



令和4年3月
山形県立図書館

目 次

第1章 計画策定の趣旨	1
1 計画策定の目的	1
2 計画の性格	1
3 計画の期間	1
4 計画の進行管理	1
第2章 リニューアル後の県立図書館に係るアンケート調査結果	3
1 県政アンケート調査の結果概要（令和2年度/2020年度）	3
2 利用者アンケート調査の結果概要（令和3年度/2021年度）	4
第3章 計画の内容	6
I 基本理念及び目指す姿	6
II 3つの行動指針	6
III 3つの視点	6
IV 取組み方策	8
1 ときめく図書館	8
（1）本との出会いを演出し、賑わいの拠点となる空間づくり	8
（2）乳幼児から高齢者まで生涯にわたり利用できる図書館づくり	9
2 たよれる図書館	10
（1）県民の暮らしや課題解決、調査研究を支援する蔵書づくり	10
（2）県内図書館全体のサービス充実に向けた県立図書館の役割の発揮	11
3 つながり・ひろがる図書館	12
（1）インターネットを活用した利便性の向上とデジタル化の推進	12
（2）連携・協働によるサービスの充実	13
【プランの目標指標・参考指標一覧】	14
山形県図書館協議会委員名簿及び「運営基本プラン2025」の策定経過	15

第1章 計画策定の趣旨

1 計画策定の目的

- ◇「県立図書館活性化基本計画／平成28年3月策定(活性化検討委員会)」に基づき実施された大規模改修工事によって、大きく機能が向上した県立図書館は、令和2年(2020年)2月1日にリニューアルオープンしました。
- ◇図書館の理念や生涯教育施設として担うべき役割をベースに置きながら、リニューアルを経て生まれ変わった新しい県立図書館の機能を最大限に活用し、すべての県民が利用しやすい図書館づくりを着実に進めていくためには、計画的かつ戦略的な運営が必要となります。
- ◇「県立図書館運営方針(平成5年3月策定)」及び「県立図書館の将来のあり方について(平成27年3月策定)」における取組みの成果や現在の課題を踏まえ、社会環境の変化にも適切に対応していけるよう、5年程度を計画期間とする新たな運営の指針を策定するものです。

2 計画の性格

- (1)「県立図書館運営方針」、「県立図書館の将来のあり方」及び「県立図書館活性化基本計画」による取組みを踏まえ、中期的な図書館運営の指針として策定します。
- (2) 図書館法第7条の2に基づく「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に規定される「基本的運営方針」であり、中期的な「事業計画」の性格を持つものです。
また、毎年度、本計画に基づき実施する取組みを掲げた運営方針を策定します。
- (3)「第6次県教育振興計画」、「第3次県子ども読書活動推進計画」及び「第4次県総合発展計画」に掲げる施策展開に準拠します。

3 計画の期間

第6次県教育振興計画の期間を勘案し、この計画の期間は4年とします。
(令和4年度(2022年度)～7年度(2025年度))

4 計画の進行管理

- (1) 本計画に基づいて実施する具体的な取組みは、年度毎策定する運営方針に規定します。
- (2) 本計画を推進するために実施した取組みとその成果は、目標指標※の達成状況とあわせて、毎年度、県図書館協議会に報告します。

※リニューアルオープンによる状況変化に加え、新型コロナウイルス感染症対策による影響で、目標値のベースとなる現況の評価が困難なことから、目標値は計画期間中に変更する場合があります。

(参考) 計画の位置付け



第2章 リニューアル後の県立図書館に係るアンケート調査結果

1 令和2年度(2020年度)県政アンケート調査の結果概要

(1) 目的

今後の運営や機能強化、情報発信等に活用する。

(2) 調査概要

令和2年度県政アンケート調査(所管:みらい企画創造部)の中で、県立図書館に係る調査を実施

- ・実施期間:令和2年8月下旬～9月上旬
- ・実施方法:郵送によるアンケート調査
- ・設問数:4問(問4～7)
- ・調査対象:県内在住の満18歳以上の男女個人
- ・回答数:標本数は2,500で、回収数は1,534件(回収率61.4%)

(3) 結果の概要と課題

設問	回答状況
問4 利用状況	・『回数にかかわらず行ったことや利用したことがある』19.4% ・「行ったことはないが、今後利用してみたい」15.5% ・「行ったことはなく、今のところ行く予定はない」62.2%

【概要】

- ・『回数にかかわらず行ったことや利用したことがある』:「男性」16.9%「女性」21.7%
- ・「行ったことはないが、今後行ってみたい、又は宅配サービス等を利用してみたい」:「男性」13.9%「女性」で17.1%
- ・性・年齢別で、『回数にかかわらず行ったことや利用したことがある』が、「男性」では「50～59歳」の割合が最も高く(23.5%)、「女性」では、『18～49歳』で25%超
- ・『18～39歳』の「女性」の約1割が、年に複数回以上来館
- ・居住地区別で、『回数にかかわらず行ったことや利用したことがある』では、「村山地域」が最も割合が高く(30.1%)、その他の「最上地域」「置賜地域」「庄内地域」では、「行ったことはなく、今のところ行く予定はない」が約7割(村山約5割)
- ・「山形市」では、『(回数にかかわらず)行ったことや利用したことがある』が46.8%で、「行ったことはないが、今後行ってみたい、又は宅配サービス等を利用してみたい」が15.7%となっており、合わせて62.5%
- ・行った目的は、「本や雑誌・DVD等を借りる」が48.5%で最も割合が高く、次いで「館内で本や雑誌・新聞を読む」が37.3%、「学習スペースを利用する」が19.5%、「郷土の歴史や文化を調べる」が12.7%の順

【課題】

- ・「行ったことはないが、今後利用してみたい」(15.5%)との回答を踏まえ、新規利用を促進する取組みが必要
- ・「最上地域」「置賜地域」「庄内地域」では、「行ったことはなく、今のところ行く予定はない」が約7割であり、県全域を意識した取組みの充実が必要

設 問	回答状況
問5 新設・拡充された機能等の認知状況	第1位「閲覧席の増加（約2.7倍）」7.0% 第2位「こどもエリア新設」6.8% 第3位「手に取ってみることのできる図書の増加（約1.2倍）」6.7% ・「知っているものはない」68.4%

【概要】

- ・「知っているものはない」は68.4%
- ・性別にみると、「館内全エリアで利用できる無料Wi-Fiの新設」以外の項目で「女性」の認知度が「男性」より高い。

【課題】

- ・県立図書館のリニューアル機能は認知度が低く、継続的な周知広報が必要

設 問	回答状況
問6 今後取り組むべき事業	第1位「講演会・研修会の開催」21.3% 第2位「移動図書館や宅配サービスの充実」20.5% 第3位「読み聞かせ会など幼児・児童向けイベントの開催」19.1%

【概要】

- ・性別にみると、「移動図書館や宅配サービスの充実」、「読み聞かせ会など幼児・児童向けイベントの開催」は「女性」の割合が高い。

【課題】

- ・講演会や研修会の開催や子ども向けイベントへの期待が高く、その充実が必要
- ・移動図書館や宅配サービスへの期待を踏まえ、遠隔地からの利用の利便性を向上させる取組みが必要

設 問	回答状況
問7 ICT機能等の利便性	第1位「スマートフォン対応の利用案内ページ等の充実」32.2% 第2位「電子書籍の導入」23.0% 第3位「郷土資料のデジタル化の促進」21.6%

【概要】

- ・年齢別にみると、「スマートフォン対応の利用案内ページ等の充実」は「30～39歳」の割合が最も高く、「電子書籍の導入」では年齢層が下がるにつれ割合が高くなる傾向にある。

【課題】

- ・情報を入手する際の主な手段が、スマートフォンに移行しており、スマートフォンからスムーズに閲覧できる情報発信の強化が必要
- ・郷土資料のデジタル化の推進とICTを活用した利便性の向上が必要

2 令和3年度(2021年度)利用者アンケート調査の結果概要

(1) 目的

図書館を利用している県民のアンケート調査を実施し、図書館運営の参考とする。

(2) 調査概要

- ・実施期間：令和3年5月24日（月）～29日（土）
- ・実施方法：アンケート用紙への記入方式。カウンター等で調査への協力を依頼
- ・設 問 数：16問
- ・回 答 数：419名

(3) 主な結果の概要と課題

① 回答者（利用者）の状況【問1～4】

【概要】

- ・約91%が山形市民。村山地域居住者で約99%
- ・50代までは女性が多く、60代以上は男性が多い。
- ・来館目的は、「本などを借りる・返す」が約8割。その他、「学習・自学」が約13%、「新聞等の閲覧」が約12%
- ・利用頻度は、「月1回以上」が約39%で、「2週間に1回以上」約24%、「1週間に1回以上」約20%

② 県立図書館が力を入れるべき取組み【問5】

【概要・課題】

- ・「新刊購入など資料充実」が7割を超えており、全世代から期待されている。
- ・「快適で安全な館内環境づくり」は、約3割から期待されており、30代・40代と70代以上の割合が高い。
- ・「企画展示・講座等開催」、「地域等と連携した賑わいつくり」、「児童向けイベント」（それぞれ約16%）など企画・イベントの実施に対する期待も大きい。

[課題] 資料の充実のための予算確保が必要

[課題] 企画展示や講座等への期待も多く、その充実が必要

③ 興味・関心のある展示【問6①】

【概要】

- ・「話題性の高いタイムリーな企画」への期待が53%で全世代を通して多い。
- ・「生活や仕事に役立つ展示」（約38%）、「幼児・児童の心を育む展示」（約24%）は40代が多い。

④ 興味・関心のある講座の分野【問6②】

【概要】

- ・「文学関係」は約4割で、50代以上の割合が高い。
- ・「子育て関係」（約20%）や「ビジネス関係」（約19%）は、20代から40代の割合が高い。

⑤ 本を選ぶ以外に、よく利用するエリア及びその満足度【問7】

【概要】

- ・「ラウンジ」、「学習席」、「こどもエリア」、「新聞雑誌コーナー」及び「オープンデッキ」の利用が多く、満足度はいずれも5段階評価で4を超えている。

⑥ 図書館からの情報発信に接する度合い【問8・9】

【概要・課題】

- ・ホームページは、「よく見ている」と「ときどき見ている」を合わせて約6割。フェイスブックは、同約8%と少ない。
 - ・利用者がよく利用するSNSは、Twitterが約33%で、Facebookは約19%
- [課題] ホームページの利用が多く、Facebookの利用は限られている。

⑦ いわゆる図書館ボランティアの意向【問14】

【概要・課題】

- ・「書架整理」（約37%）、「蔵書点検」（約28%）、「本の修理」（20%）など図書館運営に密接に関わる内容への参加意欲が高い。
- ・「イベントや企画展示」（約19%）への協力も期待される。

[課題] コロナ禍を踏まえながら、ボランティア等サポート人材の受け皿が必要

⑧ 施設の快適さとスタッフ対応の満足度【問15】

【概要】

- ・5段階評価で、施設の快適さが平均4.4、スタッフ対応が平均4.5と高い。

第3章 計画の内容

I 基本理念及び目指す姿

県民一人ひとりの生涯学習の基盤となり、知の集積と循環によって、新たな知恵や活力を生み出し、県民の成長と地域の賑わいに貢献する図書館を目指します

【目指す姿】

- 生涯学習施設として、乳幼児から高齢者まで生涯を通して利用することができ、県民一人ひとりの学びや成長に貢献している。
- 県都の中核エリアに所在する特性を活かし、交流と情報発信の拠点機能を発揮するとともに、県内図書館との連携によって県全体の図書館サービスが充実し、地域を支えている。
- これまで培ってきた継続性のある取組みをベースに、社会の変化に即応した取組みや次代を見据えた取組みに挑戦し続けている。

II 3つの行動指針

「基本理念及び目指す姿」に到達するため、次の3つの行動指針とします。

【行動指針1 ときめく図書館】

本との出会いの場・情報の結節点として知の循環を促進し、乳幼児から高齢者まで、県民の生涯学習に対する意欲が喚起される空間とサービスを提供します。

【行動指針2 たよれる図書館】

県民の学びと希望の実現を支援する資料を集積し活用を図るとともに、県内図書館全体のサービス充実に必要な連携を強化します。

【行動指針3 つながり・ひろがる図書館】

デジタル化やICTの活用等により本を基盤とした図書館サービスを県民が等しく享受できる環境づくりを進めるとともに、外部資源との連携・協働を強化し、多様な県民ニーズへの対応と図書館サービスの充実を図ります。

III 3つの視点

「行動指針」を進めるにあたり、次の3つの視点を常に持って実践します。

【視点1 戦略的な情報発信】

県内図書館の取組み等に関する情報が、必要とする県民に確実に届くよう、戦略的な情報発信を展開します。

【視点2 変化への対応】

人口減少やICT・デジタル化の急進、新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式など社会の環境変化やその変化の先を見据え、図書館が果たすべき役割を的確に実行します。

【視点3 図書館機能を活かした施策への貢献】

県教育振興計画や県総合発展計画等に掲げる施策展開に、積極的に貢献します。

県民の成長・地域の賑わい



IV 取組み方策

1 ときめく図書館 ～学びの意欲を喚起する空間の提供～

(1) 本との出会いを演出し、賑わいの拠点となる空間づくり

- ① 図書館機能を活用し、多様な主体と連携して実施する賑わいの創出
 - ・本をとおして全ての世代の県民が集い、学び、交流し、賑わいの拠点となる空間づくりの推進
 - ・多様な主体と連携し、民間など外部の視点によるアイデアや企画等を取り入れた賑わいのある生涯学習活動の推進
 - ・多様な主体が図書館機能を活用して実施する取組みへの積極的な協力など外部資源を取り込んだ賑わいづくりの推進
- ② 知的探究心を刺激し、来館のきっかけとなる企画の実施
 - ・社会情勢・時節を捉えたタイムリーな企画展示をはじめ、県民と資料等を結ぶ多様な分野の企画展示や講座等の開催による県民の知的探究や課題解決への貢献
 - ・年間を通じた賑わいを創出するため、テーマ性やストーリー性のある企画展示やイベントを計画的に実施し、継続的な来館を促進
 - ・アクティブラーニンググループでのオンラインを活用したハイブリッドな講座の開催等による県全域での県立図書館の認知度向上と来館の促進
- ③ リニューアルした図書館の魅力を伝える企画展示やイベント等の継続的な開催
 - ・大規模改修により新規・拡充した施設機能を活かすイベント等の開催
 - ・図書館を利用する楽しさや魅力を伝える周知広報の充実
 - ・外部の多様な媒体との連携協働による積極的な広報活動の展開
- ④ 遊学館内の施設や近接する施設との連携による生涯学習の拠点機能の充実
 - ・県生涯学習センターをはじめ、生涯学習の複合施設に所在する利点やカフェレストランが入居する特徴を活かした企画展示やイベント、情報発信の充実
 - ・「歴史文化ゾーン」を構成する文翔館、洗心庵及び教育資料館等と連携したエリアとしての賑わいづくりの推進
 - ・官公庁、金融機関等の民間機能、商店街及び報道機関等が集積する県都の中心地域に立地する特性を活かした情報発信等の推進
- ⑤ 縣人文庫の展示の充実
 - ・常設する縣人文庫の展示内容の充実
 - ・縣人文庫展示者以外の先人の資料収集と次代を見据えた活用の検討
- ⑥ 県立図書館職員の専門性と接遇力の向上
 - ・多様化、高度化する利用者ニーズに対応するため、職員の専門的な能力や知識等を習得する研修の計画的な実施と外部研修の積極的な受講
 - ・安全で快適な図書館づくりの基盤となる接遇能力向上のための研修等の定期的な実施
 - ・SDGs や Society5.0、新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式の実践など社会の転換期に対応できる職員の育成

(2) 乳幼児から高齢者まで生涯にわたり利用できる図書館づくり

① 乳幼児期からの利用促進と読育の推進

- ・物語への興味を喚起する読み聞かせや紙芝居、ストーリーテリング等を関係団体と連携して実施するなど子どもの成長に応じた読育の推進
- ・「おはなしのへや」や「赤ちゃん休憩室(授乳室)」等の周知や利用促進、子どもの図書館への興味を引き付ける雰囲気づくりなど、親子が快適に利用できる館内環境づくり
- ・赤ちゃん向け絵本の表示やテーマ・対象毎のおすすめ本一覧の作成・更新など保護者が利用しやすい環境整備
- ・県男女共同参画センター「チェリア」との連携した男女共同参画に関する重層的な資料提供や共同企画等の実施

② 児童・生徒の利用促進

- ・人口減少社会の進展や県内定住・回帰促進の視点等を踏まえ、ふるさとを学び、大切にすることを育む企画展示やイベント等の充実
- ・図書館見学の積極的な受入れやティーンズコーナーの充実等による利用促進
- ・アクティブラーニンググループをはじめ図書館機能を活用した探究型学習の実施など、教育機関と連携した県立図書館の活用方法等の周知広報

③ ビジネス及びリカレント等の支援

- ・就職、転職、職業能力開発や仕事・ビジネスに役立つ情報の充実と提供
- ・関係機関と連携した県内産業や企業等に関する情報提供等の実施
- ・「大学コンソーシアムやまがた」等と連携した県内教育機関の情報提供等の実施
- ・UI ターンなど移住者に役立つ情報の充実と提供

④ 県民の読書活動の推進

- ・春や秋の読書週間における企画展示等による、本に親しみ読書を楽しむ県民意識の醸成
- ・「県子ども読書活動推進計画」を踏まえ、家庭や地域等における読書活動を支援

⑤ ユニバーサルデザインの視点に立ち、快適かつ安全安心に利用できるサービスの推進

- ・関係機関との連携による対面朗読室やデージー図書の利用促進、LLブックや大活字本の充実等をはじめ、「読書バリアフリー法」の理念を踏まえたサービスの推進
- ・感染症対策のための新しい生活様式の実践など安心かつ快適な環境づくり
- ・統一感があり、分かりやすい案内表示やサイン、掲示等の徹底と利用者ニーズを踏まえた多言語化の検討
- ・防火や自然災害に対する防災訓練の定期的な実施や図書館での発生が想定される多様なトラブル等に対応する訓練等の実施

【目標指標】

指標名	現況	目標
	令和2年度(2020年度)※一部3年度	令和7年度(2025年度)
新規利用登録者数	4,202人	各年度4千人以上
個人貸出冊数	290,773冊	380,000冊
イベント参加の満足度(5段階評価)	アンケートを実施した全てのイベント4以上※R3	アンケートを実施した全てのイベントで4以上

2 たよれる図書館 ～県民を支える資料の収集・活用と県内図書館との連携強化～

(1) 県民の暮らしや課題解決、調査研究を支援する蔵書づくり

- ① 「山形県に関する資料は県立図書館にある」ことを目指した郷土に関する資料の収集・保存とその効果的な活用
 - ・郷土に関する資料について、新刊の収集と未所蔵資料の積極的な遡及収集
 - ・郷土に関する資料を活用した地域の良さや課題等を知る企画展示やイベント等の充実
 - ・県内企業や各種団体、学校等の記念誌、多様な探究の成果発表資料、県民の自伝など郷土資料に関する寄贈の積極的な受入れ
 - ・県域における資料保存のセンター的機能の継続と地域内の円滑な相互協力の支援
 - ・利用者自らの探究を支援するパスファインダー（調べ方ガイド）等のニーズを踏まえた見直しと充実
- ② 全世代の県民の学びと希望の実現を支援する資料の充実
 - ・県民及び県内図書館からの高度化、多様化する資料要求に応える新刊資料の効果的な収集と効率的な予算執行
 - ・長期的な視点に立ち、県民から必要とされる資料を厳選して収集するための選書方針等の定期的な見直し
 - ・市町村図書館や学校図書館が所蔵しづらい専門書の、連続性や関連性等を勘案した体系的な収集
- ③ 身近な課題の解決を支援する資料とレファレンス（調査相談）の充実
 - ・健康・医療や子育て、ビジネスなど暮らしや仕事の役立つ新刊資料の充実
 - ・郷土資料や専門書等の蔵書とオンラインデータベース等を活用したレファレンスによる県民の課題解決の支援
 - ・課題解決型図書館として、県民の関心や話題性の高いテーマの企画展示やイベントの開催等による能動的なレファレンスの充実
- ④ 安全安心に役立つ資料の収集保存と活用
 - ・関係機関との連携による県内の災害記録等の積極的な収集と防災・減災等への活用
 - ・大規模災害時等における県内図書館の運営状況の把握と情報発信
 - ・大規模災害時等における避難者への本の貸出など関係機関と連携した支援の実施
- ⑤ 県内地方公共団体の政策決定や行政事務に必要な資料・情報の収集と提供
 - ・先行事例を紹介する資料や新しい制度の解説資料、統計・分析に関する資料など政策決定や情報収集に役立つ資料等の充実
 - ・図書館機能を活かした新制度や制度改正の周知広報等への協力
 - ・県公文書センターとの連携による公文書を学び活用する企画展示等の検討

(2) 県内図書館全体のサービス充実に向けた県立図書館の役割の発揮

① 県立図書館の特性や役割を踏まえた県内図書館への支援の充実

- ・セット貸出、一括特別貸出等について、ニーズや課題を踏まえたサービスの充実
- ・県立図書館の役割を踏まえ、郷土資料や専門書等の充実による相互貸借の推進
- ・図書館運営やレファレンス等に関する相談への対応と情報交換の場づくり
- ・学校教育研究会図書館部会等と連携協力した学校図書館への支援の充実

② 県内図書館を支える職員等の研修の充実

- ・受講ニーズを踏まえた専門性の高い研修の県図書館協会を通じた実施
- ・国立国会図書館の遠隔研修の活用など多様な研修形態による開催の検討
- ・学校図書館の図書委員に対する研修等への協力

③ 県内図書館との連携による重層的な図書館サービスの充実

- ・県全域での図書館利用を促進するため、県内図書館との連携による企画展示やイベント等の充実
- ・県立図書館で実施した企画展示をまるごと貸し出すサービス等の充実
- ・各館の現状や課題の把握、情報共有等を目的とした実務者会議の開催と巡回訪問の計画的な実施等による人的ネットワークの強化

④ ウェブ会議システム等の活用による新たな連携の推進

- ・各図書館が開催する講座等のイベントをウェブ会議システムで繋ぎ、情報発信効果や参加者の利便性を向上
- ・ウェブ会議システムを利用したリモート研修を積極的に実施し、連携に要する時間と距離の負担を軽減
- ・図書館情報システムの県内図書館職員の情報共有機能を活用した情報交換の充実

⑤ 県外図書館等とのネットワークの推進

- ・全国的ネットワークの地域拠点機能を果たし、県外図書館等の情報収集と県内図書館等への情報提供

【目標指標】

指 標 名	現 況	目 標
	令和2年度(2020年度)※一部3年度	令和7年度(2025年度)
蔵書回転率(個人貸出数/蔵書冊数)	40.2%	50%
パスファインダー数	45点	50点
県内市町村立図書館(室)への貸出冊数	6,136冊	12,000冊
学校図書館への延べ貸出回数(一括・セット)	17回	30回
図書館職員研修の参加満足度(5段階評価)	実施した全ての研修で4以上※R3	全研修で4以上

3 つながり・ひろがる図書館～デジタル化と連携協働によるサービスの充実～

(1) インターネットを活用した利便性の向上とデジタル化の推進

① アクティブラーニンググループを活用した情報受発信の強化

- ・アクティブラーニンググループにおけるオンラインを活用したハイブリッドな講座の積極的な開催による県全域への発信の強化
- ・アクティブラーニンググループと県内図書館等を繋いだオンラインイベントの開催
- ・アクティブラーニンググループを活用した県民の生涯学習の成果を発表する機会と場の提供

② インターネットによる情報発信の更なる強化

- ・スマートフォンからの利用に適したホームページシステムの構築
- ・情報の閲覧状況の把握・検証を踏まえ、ターゲットを明確にし、ホームページやSNS、動画の特性を活かした発信の強化
- ・ホームページ内の「こどものページ」の充実など児童や生徒が利用しやすく分かりやすいページづくり
- ・実施するイベント等のアーカイブ化・共有化を進め、二次的な活用を推進

③ 非来館型サービスの周知広報と利便性向上

- ・インターネット予約サービスや図書宅配サービスの利用促進を図るため、市町村に出向き、現地での利用者カードの作成・交付など遠隔地域の利便性向上の推進
- ・遠隔地からでも必要な図書資料が円滑に利用できるよう、インターネット予約サービスや市町村図書館との連携による受取返却、図書宅配サービス等の周知広報の強化

④ 貴重資料のデジタル化による長期保存対策と利活用の推進

- ・劣化が著しく代替資料がない古文書や絵図など歴史資料のデジタル化の推進とICTを活用した公開・活用
- ・学校におけるICT環境の進展を踏まえ、デジタル化された郷土資料等の活用方策の検討と提案

⑤ オンラインデータベースの活用の推進

- ・国立国会図書館が提供する図書館向けデジタル化資料送信サービスやNDLサーチ等の使い方講座やサービスを活用したイベント開催など、オンラインサービスの活用促進と周知広報の強化
- ・他都道府県の先行事例を踏まえ、国立国会図書館が運営する「ジャパンサーチ」とのデジタルデータの連携を検討

⑥ レファレンスデータベースの充実

- ・県内図書館等と連携したレファレンス事例の充実
- ・図書館情報システムのレファレンス機能や国立国会図書館のレファレンス協同データベースの活用したレファレンスの効率化

⑦ 電子書籍サービスの検討

- ・情報端末の普及や教育の情報化、読書バリアフリー法の施行及び感染症の対策など外部環境の大きな変化を踏まえた対応の検討
- ・県内外におけるサービス実施状況や利用可能な財源等の継続的な情報収集

(2) 連携・協働によるサービスの充実

① 県民や団体等との連携・協働によるサービスの充実

- ・ 図書資料の排架や書架の整理、企画展示やイベントの実施・補助、図書館情報の発信など図書館の業務を幅広く支援する運営協力サポーター制度(仮称)の創設
- ・ 民間団体との連携・協働による助成金など外部資金を活用したイベント等の実施
- ・ 県内の書店や出版業の関係団体等との情報交換の場づくりの検討

② 協働による賑わいづくりを推進するネットワークづくり

- ・ 協働の賑わいづくりを促進するための情報共有・意見交換の場づくり
- ・ 生涯教育に関する団体の活動や県民の学習の成果等を発揮する場の提供

③ 次代に引き継ぐ資料の積極的な寄贈受入れ

- ・ 散逸が危惧される貴重な資料や所蔵がなく県民に有益な資料等の積極的な寄贈受入れ
- ・ 寄贈に関する周知広報など県民等への働きかけの強化

④ ふるさと納税制度や雑誌スポンサー制度を活用した図書館機能の充実

- ・ 資料の充実を図るふるさと納税制度や雑誌スポンサー制度の積極的広報の推進
- ・ 各制度への協力を促進するインセンティブの検討

⑤ 県民のニーズや意見をくみ取る広聴と施設運営

- ・ 利用者アンケートや企画・講座・イベントの参加者アンケートの実施と活用
- ・ 県民のアイデアや企画、希望等を企画展示やイベント等に反映させるため、館内アンケートBOXの設置やメールでの意見募集等を検討
- ・ 機会を捉えた未利用者や非来館者からの意見聴取
- ・ 利用者の自発的なマナー向上を働きかけるキャンペーン等の実施

【目標指標】

指 標 名	現 況	目 標
	令和2年度(2020年度)※一部3年度	令和7年度(2025年度)
図書館ホームページの延べ閲覧ページ数 (ページビュー数)	1,398,489 ビュー	1,600,000 ビュー
インターネット予約貸出のうち他館受取冊数	3,757 冊	6,000 冊
図書館サポーターの延べ活動日数(人・日)	7人・日(R2蔵書点検)	今後設定
利用者アンケートの満足度(施設)	4.4 ※R3調査	4.5以上
利用者アンケートの満足度(スタッフ)	4.5 ※R3調査	4.5以上

【プランの目標指標・参考指標一覧】

指標名	現況	目標
	令和2年度(2020年度)※一部3年度	令和7年度(2025年度)
【ときめく】		
新規利用登録者数	4,202人	各年度4千人以上
個人貸出冊数	290,773冊	380,000冊
イベント参加の満足度(5段階評価)	アンケートを実施した全てのイベント4以上※R3	アンケートを実施した全てのイベントで4以上
(参考)主なイベントの参加者数	1,057人	—
(参考)主な企画展示の開催数(うち連携展示数)	97展示(51展示)	—
(参考)遊学館入館者数	177,058人	—
【たよれる】		
蔵書回転率(個人貸出数/蔵書冊数)	40.2%	50%
パスファインダー数	45点	50点
県内市町村立図書館(室)への貸出冊数	6,136冊	12,000冊
学校図書館への延べ貸出回数(一括・セット)	17回	30回
図書館職員研修の参加満足度(5段階評価)	実施した全ての研修で4以上※R3	全研修で4以上
(参考)郷土資料収蔵冊数	121,624冊	—
(参考)レファレンス(調査相談)件数	1,993件	—
(参考)図書館職員研修の参加申込者数	210人(R3)	—
【つながり・ひろがる】		
図書館ホームページの延べ閲覧ページ数 (ページビュー数)	1,398,489ビュー	1,600,000ビュー
インターネット予約貸出のうち他館受取冊数	3,757冊	6,000冊
図書館サポーターの延べ活動日数(人・日)	7人・日(R2蔵書点検)	今後設定
利用者アンケートの満足度(施設)	4.4 ※R3調査	4.5以上
利用者アンケートの満足度(スタッフ)	4.5 ※R3調査	4.5以上
(参考)外部データベースサービスの利用者数	576人	—
(参考)インターネット予約受付冊数	19,155冊	—
(参考)資料宅配サービス利用件数	282件	—
(参考)Facebookのフォロワー数(年度末)・アクセス数(年度)	807人・14,206件	—
(参考)Twitterのフォロワー数(年度末) ・エンゲージメント数(年度) ※R3.8開設	193人・10,108件 (R3.12末)	—
(参考)雑誌スポンサー数	7社8誌	—
(参考)ふるさと納税件数	4件	—

※「参考指標」は、「目標指標」を補完する指標であり、目標とする数値は設定しません。上記表では「(参考)」と表示しています。

※リニューアルオープンによる状況変化に加え、新型コロナウイルス感染症対策による影響で、目標値のベースとなる現況の評価が困難なことから、目標値は計画期間中に変更する場合があります。

山形県図書館協議会 委員名簿

(五十音順・敬称略)

氏 名	所属名 ・ 職 名
伊 勢 博	株式会社アーキネット 代表取締役
井 上 陽 子	株式会社アサヒマーケティング m a m a i d 編集長
太 田 祐 子	山形県学校図書館連絡協議会会長(山形市立出羽小学校校長)
北 口 己津子 (委員長)	山形県立米沢女子短期大学国語国文学科 准教授
鈴 木 雅 史	山形新聞社 論説委員
高 橋 一 枝	一般社団法人とらいあ 専務理事 (新庄市立図書館副館長)
藤 川 かん奈	合同会社O r i o r i 代表社員

「運営基本プラン2025」の策定経過

期 日	委員会等	内 容
令和3年(2021年) 3月22日	令和2年度 第1回図書館協議会	新計画の諮問 ・これまでの経過と現状について意見 交換
令和3年(2021年) 7月29日	令和3年度 第1回図書館協議会	前回の議論を整理し、計画概要(柱建 てと大項目)に関する協議
令和3年(2021年) 11月	各委員から意見聴取	答申案の協議に先立ち、各委員から個 別に意見聴取
令和4年(2022年) 2月9日	令和3年度 第2回図書館協議会	答申案に関する協議
令和4年(2022年) 3月16日	答申	「運営基本プラン2025」の答申 ・委員長から館長へ答申
令和4年(2022年) 3月31日	計画策定・公表	「運営基本プラン2025」の策定 及び公表